

ひかえたい過保護、過干渉

これまでに、“学習”と“勉強”と、見かけは同じように見えても、大変な違いがあるというお話をしました。

“学習”とは、まず“真似る”ことであり、次にこれを飽きずに“くり返す”ことであって、それが幼児の本性であり、そうせずにはいられないものです。だから、親は子どもに良い手本を示してやるだけで、「やりなさい」と言わなくても、幼児は進んでこれを真似し、喜んでそれをくり返してやり、全く飽きることを知りません。それで、幼児は何事によらず、短期間にこれをすっかり身につけてしまうことが出来るわけです。

ところが、親は、それをずっと眺めていることが出来ないもので、何のかんのと口を出したくなるものですからつい注意し、“楽しいはずの学習”が逆に早く免れたいという“いやな勉強”に変わってしまい、そのため親の意図とは全く正反対の悪い結果に終わってしまうようです。

子供たちの感想を書いた作文を読んでもみますと、「毎日楽しみにしているテレビを見終わって、さて勉強を始めようと思っている時、『早く勉強しなさい』と言われることくらいいやな気持ちになることはない。勉強しようという気持が、その一言で吹き飛んでしまう」という意味の作文によく出会います。このことは、どうもほとんどの子供が体験していることのようにです。

「進んで負えば、重荷も重からず」という諺があります。自分から進

んで持ってやろうという親切心で持ってやった荷物は、たとえどんなに重い荷物でも、それが少しも気になりません。ところが、人から持つようにと言われて持たされた荷物は、軽い荷物でも重く感じられます。これが人情というものです。

だから、“学習”を強制して、いやな“勉強”にしてしまっただけではいけないのです。

たびたびくり返して言いますが、“学習”は子供のもともと好きなことなので、ほっておいても必ず学習を始めるものです。

それが待ち切れないで強制するのは“せっかち”というものであり、親の“わがまま”と言っても言い過ぎではないと思います。

中国の寓話に「苗の成長を少しでも助けてやろうと思い、畑の苗を一本一本、引っ張って回った」というお百姓の話があります。これが“助長”という熟語のいわれで、有名な話です。苗を引っ張ったら、成長を助けるどころか枯れてしまいます。こんなことのわからないお百姓がいるはずはありませんが、そこにこの寓話の意味があるわけです。

わが国では良い意味に使われる“助長”という言葉が、中国では、真の成長を妨げるものとして使われています。事実、子供の能力は、保護や干渉が過ぎれば過ぎるほど、その成長が妨げられます。孔子が、詩の大切なことだけを教えて詩そのものの講述をしなかったことには、親の陥りやすい“助長”から遠ざかる意図があったように思われます。